

令和3年7月15日

まちづくり委員会資料

所管事務報告

登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区まちづくりビジョンの策定について

資料1 登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区まちづくりビジョンの策定について

資料2 登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区まちづくりビジョン（案）に関する意見募集の実施結果について

参考資料 登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区まちづくりビジョン

まちづくり局

1 はじめに

(1) 背景

- 登戸駅周辺は、かつて津久井道沿道の宿場町として賑わいと活気にあふれ、多摩川の渡しなどにより人の往来が盛んなまちでした。また、向ヶ丘遊園駅周辺は向ヶ丘遊園地などの娯楽施設などによるまちの活性化や、生田緑地での憩い、梨・桃狩りなど、様々な人々を受け入れながら発展してきた歴史があります。
- 昭和 63 年に、登戸駅周辺において急激な人口増加による生活環境悪化の改善等を図るため土地区画整理事業に着手しました。
- 平成 14 年に、社会情勢の変化等により向ヶ丘遊園は閉園し、その後、向ヶ丘遊園モノレール線についても廃止、撤去されました。
- 現在、登戸土地区画整理事業の進捗は、事業も終盤を迎え、駅前の土地利用誘導など、まちづくりの新たなステージに突入しています。
- また、駅周辺においては、老朽化した建物の建替えなど、土地利用更新の動きが見られることから、それらの機会を捉え、歴史のある登戸・向ヶ丘遊園の特徴や、まちのポテンシャルを活かした魅力あるまちづくりを推進していく必要があります。

(2) 策定の目的

- 地域住民、民間事業者及び行政等のまちづくりに関わる多様なステークホルダーが、目指すべきまちの将来像を共有し、それぞれが連携してまちの将来像の実現に向けた取組を推進することにより、まちの価値向上につなげていく基本的な指針として、本ビジョンを策定します。

(3) 本ビジョンの進め方

- 本ビジョンは、概ね 3 0 年後を見据えた「まちの将来像」等を示し、概ね 1 0 年間の取組を推進するための指針です。
- まちづくりに関わる多様なステークホルダーと、意見交換を行うなど、連携を深めながら、効率的かつ効果的にまちづくりを進めていきます。
- 本ビジョンの期間である 1 0 年後の令和 1 2 (2 0 3 0) 年度末を目途に、ビジョンの全体見直しを行います。なお、新型コロナウイルス感染症による社会変容を注視し、必要に応じて見直しを行っています。
- 「川崎市持続可能な開発目標 (SDGs) 推進方針」に基づき、SDGs の理念を踏まえ、取組を推進していきます。

2 まちづくりビジョンの位置づけ

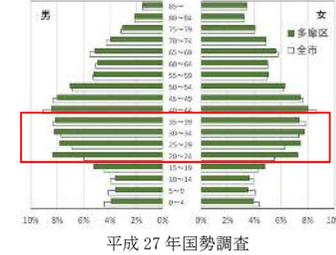
- 本ビジョンは、「川崎市総合計画」を上位計画として、都市計画の基本的な方針である「都市計画マスタープラン」との整合を図ります。
- また、多摩川や生田緑地等の地域資源に関わる様々な関連計画と整合・連携を図るとともに、各々の計画に基づく取組と連携して魅力あるまちづくりを進めていきます。



3 まちの現状

(1) 人口について

- 若年世代が多く、可能性を秘めたまち
- ・現在、多摩区の人口は、約 2 1 万人
- ・ 2 0 ~ 3 0 代の比率が市内トップ

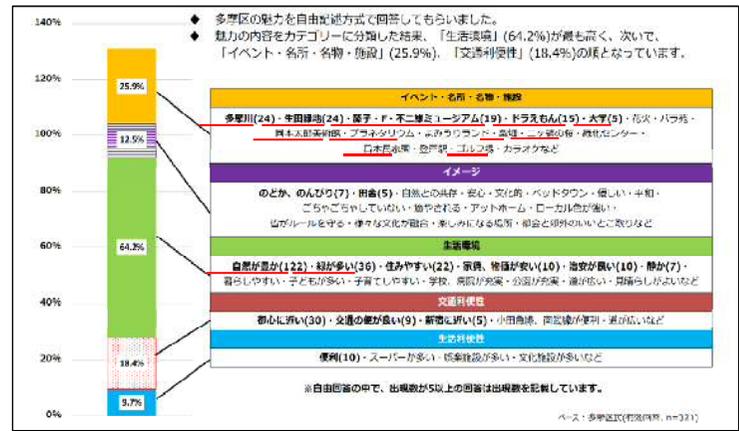


- ・ 駅周辺の人口の 2 0 歳代が 2 割、3 0 歳代が 2 割を占めている
- ・ 6 0 歳代以降は少ない



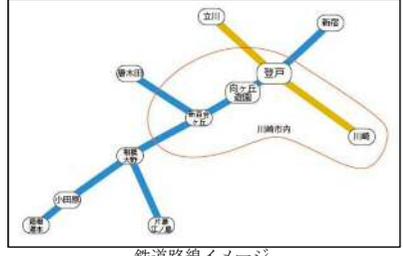
■ 多摩区の魅力は“自然が豊か”がトップ

- ・多摩区民を対象とした都市イメージ調査 (多摩区の魅力について) では、「自然が豊か」という回答が一番多い
- ・イベント・名所・名物・施設として、多摩川や生田緑地の自然環境や藤子・F・不二雄ミュージアムなどの文化施設が挙げられている



(2) 立地特性について

- 小田急沿線は新宿から箱根・湘南エリアまでをつなぎ、住宅や商業・業務の集積地、観光地といった多様な沿線住民、資源を有している
- 川崎市内の小田急沿線においては、登戸地区の土地区画整理事業の推進、小田急電鉄による向ヶ丘遊園跡地の再開発、新百合ヶ丘駅における横浜市高速鉄道 3 号線が延伸計画など、まちづくりの面で大きな影響を与える事業機会が控えている
- 小田急線沿線のまちには、大学が多くあり、地区内には学生が多く居住している



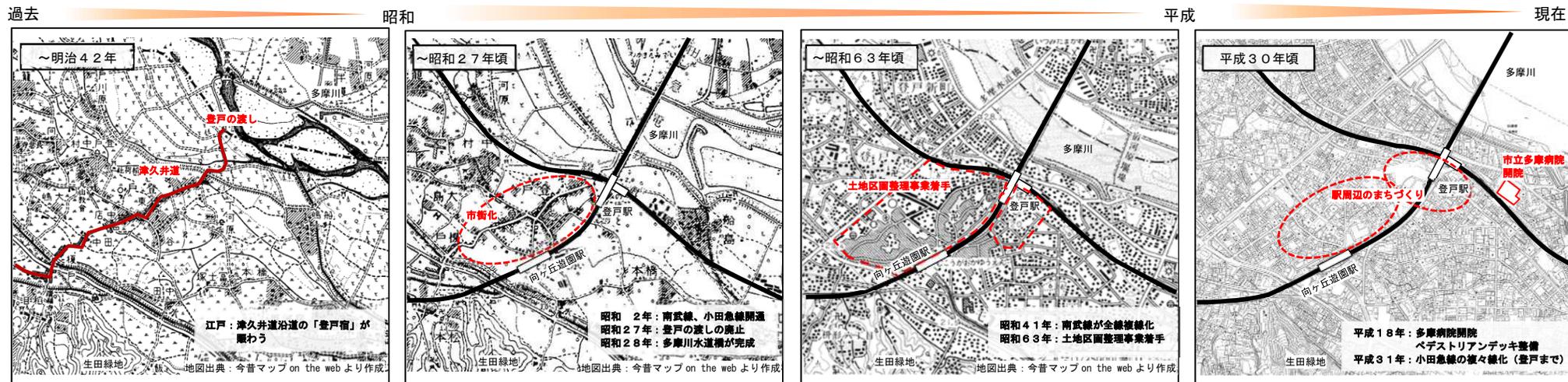
《小田急線沿線の大学》

- 成城学園前駅 … 成城大学
- 向ヶ丘遊園駅 … 専修大学
- 生田駅 … 明治大学、聖マリアンナ医科大学
- 読売ランド前駅 … 日本女子大学 (2021.4 にキャンパス移転 日本女子大学 HP)
- 新百合ヶ丘駅 … 昭和音楽大学、日本映画大学、田園調布学園大学大学院
- 柿生駅 … 桐蔭横浜大学
- 鶴川駅 … 和光大学、国士舘大学、鶴川女子短期大学
- 玉川学園前駅 … 玉川大学、昭和薬科大学

4 登戸が持つまちの魅力

(1) まちの変遷について

登戸：津久井道を中心に発展したエリア



・江戸時代、津久井地方から江戸へ産物等運ぶ流通の道として利用され、津久井道の要所として、多くの店等が立ち並び、**活気にあふれた宿場町**として栄えていた。



露店が並ぶ様子
(多摩区ふるさと写真集)

・南武線、小田急線が開通し、交通インフラの充実が図られたことで、**市街化が進展**した。



南武線登戸駅
(多摩区ふるさと写真集)

・多摩川でヨット、釣り、花見など**水辺を楽しむ光景が見られた**。
・人口が急激に増加する中で、インフラが未整備のまま市街化が進行。防災、生活環境改善等を目的に**土地区画整理事業に着手**した。



多摩川での水遊びの様子
(多摩区ふるさと写真集)

・ベデストリアンデッキ整備、多摩病院開院などの都市機能の充実が図られた。
・区画整理事業は終盤を迎え、**駅周辺の土地利用等のまちづくりを進めていく段階**に入っている。



登戸駅南口ベデストリアンデッキ

(2) 継承したい歴史とポテンシャル

■継承したい「登戸らしさ」

「道から生まれたつながりのあるまち」

宿場町として発展してきた地域性

- 宿屋だけでなく、下駄、提灯、畳、馬具など様々なお店が軒を連ねるなど、**賑わいや活気にあふれていた**。
- 自然とつながり井戸端会議や子供の遊び場になるなど交流が育まれていた。また、交通の要所として、渡し船等で多くの人や物が運ばれるなど、**人のつながりの豊かさにあふれていた**。



子供たちの遊び場となっている通りの様子
(多摩区ふるさと写真集)



登戸の渡し
(多摩区ふるさと写真集)

■登戸のポテンシャル

交通ターミナルとしての利便性

- JR 南武線、小田急小田原線の2路線が利用でき、小田急線の複々線化や快速急行の停車により都心へのアクセシビリティが向上
- 登戸駅の乗降客数は年々増加しており、**小田急小田原線とJR 南武線でそれぞれ約16万人以上**

	H20	H30
登戸駅 (JR)	145,562*	165,430*
登戸駅 (小田急)	146,642	165,992
向ヶ丘遊園駅 (小田急)	64,114	67,294
新百合ヶ丘駅 (小田急)	—	124,100

1日当たりの乗降者数 (人) 出典：川崎市統計書 (JR 東日本・小田急電鉄株公表資料)
※平均乗車人員を2倍した値

多摩川などの豊かな自然環境

- 多摩川は、市民の憩いの場、アクティビティの場として多方面から活用されており、**市街地に近接した貴重な自然資源**として、市民にとって身近な存在となっている



多摩川の自然環境



多摩川でのアクティビティ

5 向ヶ丘遊園が持つまちの魅力

(1) まちの変遷について

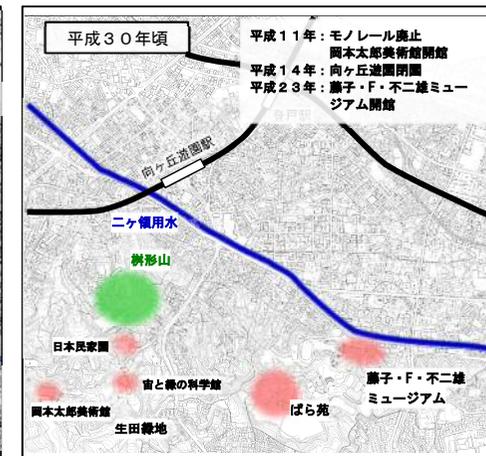
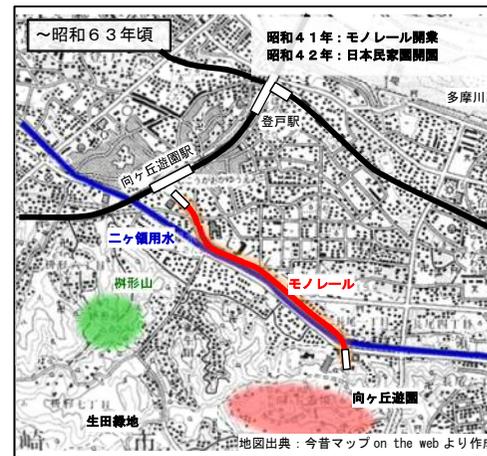
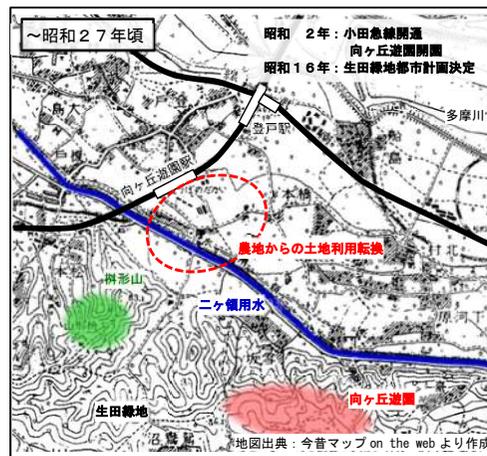
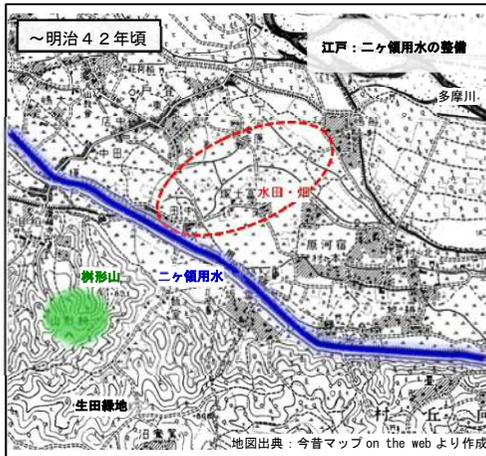
向ヶ丘遊園：向ヶ丘遊園地とともに発展したエリア

過去

昭和

平成

現在



- 江戸時代、田畑を潤す用水路として二ヶ領用水が整備された。
- 畑や水田が広がっており、多摩川桃や多摩川梨などの農業が盛んであった。



水田の作業
(多摩区ふるさと写真集)

- 「花と緑の遊園地」として向ヶ丘遊園が開園し、多くの人々が賑わい、豊かな自然環境のなかで楽しませた。



向ヶ丘遊園地
(小田急電鉄提供)

- 駅の開業と向ヶ丘遊園の開園に伴い、駅周辺の土地利用転換が始まった。

モノレールが開業し、向ヶ丘遊園駅から遊園地まで多くの人々と夢を乗せて走っていた。



モノレール
(多摩区ふるさと写真集)

社会情勢の変化により、向ヶ丘遊園の開園やモノレールが廃止されたが、藤子・F・不二雄ミュージアムや日本民家園など、新たな文化施設等が誕生した。



藤子・F・不二雄ミュージアム
©Fujiko-Pro

(2) 継承したい歴史とポテンシャル

■継承したい「向ヶ丘遊園らしさ」

「多くの人々を誘引する楽しさのあるまち」

- 向ヶ丘遊園は、子供から大人まで一日楽しめる場所であった。また、枳形山は自然の中でゆとりを感じながら、山頂からの眺望を楽しめる場所であり、広域から多くの人を集めていた。
- モノレールに加えて、桜並木など、遊園地、生田緑地へ向かう楽しさ、高揚感があった。



花の大階段
(多摩区ふるさと写真集)



枳形山山頂展望台
(多摩区ふるさと写真集)



向ヶ丘遊園へ向かう桜並木
(写真アルバム川崎市の昭和)

■向ヶ丘遊園のポテンシャル

魅力ある歴史・文化・芸術 などの観光資源

- 宙と緑の科学館や、日本民家園、藤子・F・不二雄ミュージアム、岡本太郎美術館など魅力ある文化・観光施設が多くある。
- 自然環境を活かした、「人が集い楽しむ場」として、小田急電鉄による向ヶ丘遊園跡地利用が計画されている。



岡本太郎美術館



向ヶ丘遊園跡地開発
(小田急電鉄)

生田緑地などの豊かな自然環境

- 生田緑地は、多摩丘陵の一角を形成し、四季折々を楽しめる首都圏を代表する緑豊かな自然環境を有している。



生田緑地の自然環境

商店街イベントによる賑わい創出

- 多くの人を動員する「民家園通り商店街夏祭り」など、地域活性化につながる取組が継続的に行われている。
- 大学生と連携した取組も行われている。



民家園通り商店街夏祭り
(民家園通り商店会 HP)

6 まちの将来像とまちづくりの視点

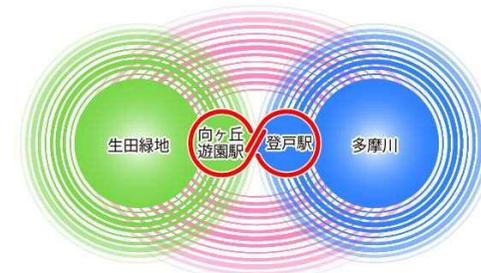
他の都市にはないまちのポテンシャルを活かし、誰もが住みたい、訪れたいと思うようなまちを目指して、まちづくりに関わる多様なステークホルダーと連携を図りながら、まちづくりを進めていくため、まちの将来像、まちづくりの視点を次のとおり設定します。

まちの将来像

『豊かな自然や文化に包まれた、活気とつながりのある心が弾むまち』

当地区は、「集う・訪れる・暮らす・働く」宿場町として人々のつながりや活気にあふれていた登戸と、向ヶ丘遊園地、枅形山等により多くの人々を誘引する「楽しさ」「わくわく」にあふれていた向ヶ丘遊園により発展してきたまちです。

安心して暮らし続けられるまちを目指すとともに、それぞれのエリアが持つまちの歴史を継承・融合し、多摩川、生田緑地という豊かな自然環境や様々な文化施設など、まちのポテンシャルを最大限活かして、「人と人」「人とまち」「まちと自然」の調和を図りながら、つながりを強め、居心地がよく、水、緑、まちが一体となったまちづくりを進めていきます。



■まちづくりの視点

視点1 多摩区の顔となる駅周辺に生まれ変わる

- 訪れた瞬間から水や緑の始まりを感じ、迎え入れるおもてなし空間づくり
- まちのポテンシャルを活かした、誰もが立ち寄りたくなる「わくわく」を創出するシンボリックな空間づくり
- 道路や広場、公園等の公共空間を使いこなす賑わいづくり



おもてなし空間イメージ



視点2 魅力にあふれた個性あるまちの資源が彩りを添える

- まちに訪れた人、まちに住む人が、観光、買物、リフレッシュなど、一日中楽しく様々な過ごし方ができるまちづくり
- 四季折々の表情を見せる生田緑地や多摩川のそばで、仕事、趣味など、思い思いのライフスタイルが見つかるまちづくり
- 登戸、向ヶ丘遊園のそれぞれが育んだ歴史や文化に触れ、まちへの愛着を感じることができるまちづくり
- 誰もが使いやすく、災害時等の避難場所となるオープンスペースや公園が身近にあるなど、安心して快適に住み続けられるまちづくり



自然の中でヨガ（生田緑地 HP）



河川敷を散歩

視点3 歩いて楽しく、移動が楽しく、ふらっと行きたくなる

- 様々な魅力ある資源を歩いて移動したくなる仕掛けとともに、花や緑があふれ、ホッと一息つける街並みづくり
- 多摩川や二ヶ領用水の水、生田緑地や多摩丘陵の緑を感じられる道づくり
- 路線バス、タクシーだけでなく様々な移動手段が使いやすい駅前空間づくり



多様な移動手段イメージ（国土交通省 HP）



自然を感じる通りイメージ
（国土交通省 HP）

視点4 「まち」に関わるすべての人が新たな価値を作り出し、地域をおもしろくする

- 子育て世代、シニア、学生など世代を超え、地域に関わる全ての人々が主役となり作り出すまちづくり
- 個性豊かな商店や商店街が様々な人と混じり合って新たな魅力を創出するまちづくり
- 環境にやさしく自然環境との共存を意識した誰にでもやさしいまちづくり



コスギンピック（武蔵小杉）



カワサキよみちサーカス
（川崎）

7 まちの概念図

まちの将来像とまちづくりの視点を踏まえて、まちの概念図を次のとおり示します。多摩川や生田緑地等とのつながりを強める「自然・文化・観光軸」、駅前への賑わいを形成する「賑わいの核」、両駅を結ぶ「賑わい交流軸」などを位置づけます。

自然・文化・観光軸

<将来イメージ>

緑などの自然が感じられ、来街者の期待感を高める自然や、文化、観光の拠点をつなぐ軸

- 多摩川の水と生田緑地の緑を感じられる移動したくなる通り
- 自然・文化・観光の核に誘う「わくわく」のある通り
- まちに関わる人々が新たな魅力を作り出すまちづくり

キーワード (例)

- ・緑とまちの融合、緑豊かな街路樹、花や緑のポケットパーク
- ・安心な歩行空間、様々な移動手段
- ・案内、情報発信
- ・賑わいある沿道店舗、イベントなどの賑わい

賑わいの核

<将来イメージ>

人々をまちに惹きつける、駅前にふさわしいウェルカムゾーンとなる都市活動拠点

- 訪れた瞬間から水や緑を感じる来街者を迎え入れるおもてなし空間
- 誰もが立ち寄りたくなる魅力にあふれたまちのランドマーク
- 分かりやすく歩きやすい移動したくなる空間

キーワード (例)

- ・商業、業務など様々な魅力ある施設、職住近接
- ・まちをおもしろくする駅前イベント空間、ゆとりあるオープンスペース
- ・人々の目を惹く街並み、建物の共同化、街区統合
- ・安心・安全な歩行空間、歩行者と自動車の分離、案内、情報発信、災害等の対応

賑わい交流軸

<将来イメージ>

人々の往来を促し、まちを活性化させる2つの駅前空間をつなぐ軸

- 日々の生活に彩りを添える人と人のつながりや活気を生み出す通り
- 花と緑を感じ、ホッと一息つける憩い空間
- 津久井道から生まれたまちの歴史を継承し、新たな価値を作り出す通り

キーワード (例)

- ・快適でゆとりある歩行空間、滞留・憩い空間、休憩できるベンチ
- ・魅力ある様々な沿道店舗、オープンテラス
- ・安全な歩行空間、夜も明るく安全
- ・道路空間を活用したイベント

その他の核・軸

【自然・文化・観光の核】：登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区が誇る魅力にあふれ、大切に育てていく拠点

【地域軸】：幹線道路と駅をつなぐ、広域的な交通を支える軸

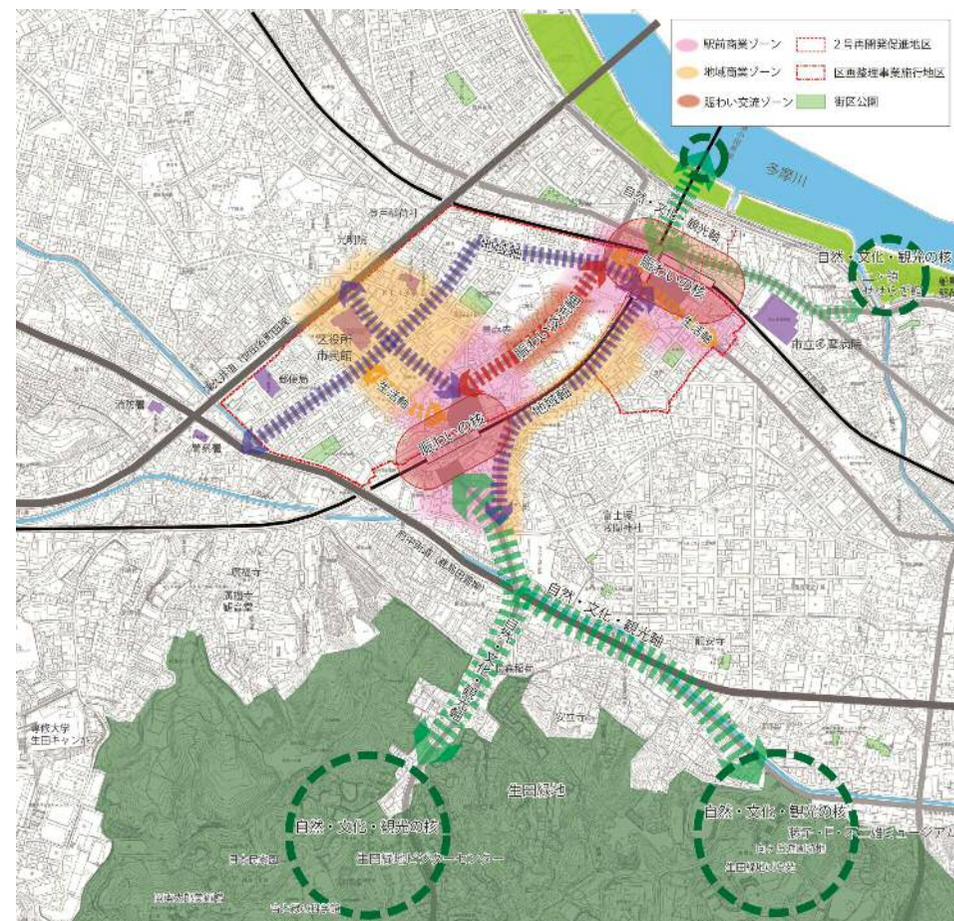
【生活軸】：日常生活を支える地域生活の骨格となる軸

【駅前商業ゾーン】：働く・遊ぶ・憩う・住むがそろう中心エリア

【地域商業ゾーン】：生活に求められるサービスがあるエリア

【賑わい交流ゾーン】：賑わい交流軸からの人の流れを呼び込む様々なサービスがあるエリア

まちの概念図



8 将来像の実現に向けた取組

まちの将来像を実現するため、多様なステークホルダーと連携し、「核」「軸」づくりに向けて、ハード、ソフトの両面から取組を推進していきます。また、「自然・文化・観光軸」「賑わいの核」「賑わい交流軸」の形成に向けた取組を戦略的に進めていきます。なお、新型コロナウイルス感染症による生活スタイルの変化、社会情勢等の変化を見極めながら取組を進めていきます。

自然・文化・観光軸の形成

緑などの自然が感じられ、来街者の期待感を高める自然や文化、観光の拠点をつなぐ「自然・文化・観光軸」の形成に向けた取組を推進します。

- まちなかから生田緑地に向けて、地域や企業等の多様なステークホルダーと連携し、**まちの顔にふさわしい花と緑の連続性のある空間づくり**に取り組みます。また、既存施設の質の高い維持管理など、**地域の緑環境を財産として守り、将来に伝え育んでいくための環境づくり**に取り組みます。



花や緑のあるまちなかのみどり空間 イメージ



ばら苑アクセスロード（ばら苑アクセスロード花壇ボランティアの会管理）

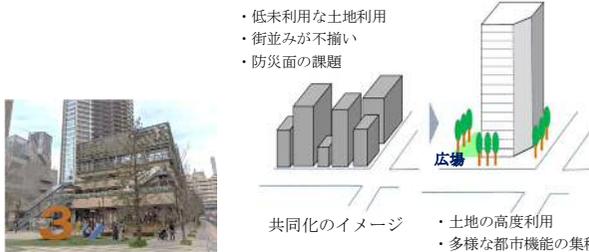
- 路線バスやタクシーに加え、**様々な交通手段が利用でき、新たな取組にも率先してチャレンジできる土壌づくり**に取り組みます。

賑わいの核の形成

人々をまちに惹きつける、駅前にあふさわしいウェルカムゾーンとなる都市活動拠点の形成に向けた取組を推進します。

- 民間活力を活かし、効率的で効果的な取組を推進するため、都市計画手法等を活用するとともに、様々な制度を複合的に利用した、駅前の**まちのランドマークとなる土地利用を誘導**します。

- 駅から幹線道路の横断や、**多摩川、生田緑地とのつながりに配慮し、歩いて移動したくなる駅とまちをつなぐ安全で快適な歩行者空間づくり**に取り組みます。



ランドマークとなる駅前空間（コスギサードアベニュー）

- 共同化のイメージ
- ・土地の高度利用
 - ・多様な都市機能の集積
 - ・広場等の滞留空間の確保
 - ・歩行者空間の充実

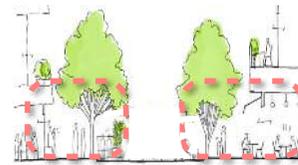
賑わい交流軸の形成

人々の往来を促し、まちを活性化させる2つの駅前空間をつなぐ「賑わい交流軸」の形成に向けた取組を推進します。

- 沿道店舗等と連携したベンチやオープンテラスの配置など、**ウォーカブル※なまちづくりを推進するとともに、道路等の既存ストックの有効活用**に取り組みます。

※ ウォーカブル (walkable) : 「歩きやすい、歩きたくなる」

- 商店街や大学等の地元組織と連携し、子育て世代から学生、シニアまで、**あらゆる人々が参加できる地域活性化に向けたまちづくり**に取り組みます。



歩行空間と沿道が一体となった賑わい・交流空間の形成イメージ



登戸2号線公共空間活用イメージ（イベント時）

※周辺建築物やデザイン等についてはイメージ

取組プロセス

まちづくりに関わる多様なステークホルダーが、目指すべきまちの将来像を共有し、意見交換等を行い、それぞれが連携してまちの将来像の実現に向けた取組を推進していきます。

	短期（概ね5年間）	中長期（概ね5年間）
まちの将来像の実現に向けた取組	ステークホルダーと連携した「核」「軸」づくりの検討・推進	引き続き、ステークホルダーと連携した「核」「軸」づくりの推進
	土地区画整理事業の建物更新の機会を捉えたまちづくり	引き続き、取組の推進
自然・文化・観光軸の形成	将来像の実現に向けた検討等	検討内容を踏まえた取組の推進
賑わいの核の形成	土地区画整理事業による建物更新の機会を捉えて推進	引き続き取組の推進
賑わい交流軸の形成	土地区画整理事業による建物更新の機会を捉えて推進	引き続き取組の推進

登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区まちづくりビジョン（案）に関する 意見募集の実施結果について

1 概要

登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区は、土地区画整理事業の進捗により、駅周辺や2つの駅をつなぐ商業エリアなど、中心拠点の核となるまちづくりを進めていく段階となり、当事業区域外においても土地利用更新の動きがあることから、目指すまちの将来像等を多様なステークホルダーと共有し、それぞれが連携して地域生活拠点にふさわしい魅力あるまちづくりを推進するため、このたび「登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区まちづくりビジョン（案）」を取りまとめ、このビジョン案について市民の皆様の御意見を募集しました。

その結果、19通105件の御意見をいただきましたので、御意見の内容とそれに対する市の考え方を次のとおり公表します。

2 意見募集の概要

題 名	登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区まちづくりビジョン（案）に関する意見の募集について
意見の募集期間	令和3年4月19日(月)から令和3年5月18日(火)まで
意見の提出方法	電子メール、ファックス、郵送、持参
募集の周知方法	<ul style="list-style-type: none"> ・市政だより（令和3年4月21日号） ・市ホームページ ・資料の閲覧（かわさき情報プラザ、各区役所市政資料コーナー、まちづくり局登戸区画整理事務所）
結果の公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページ ・資料の閲覧（かわさき情報プラザ、各区役所市政資料コーナー、まちづくり局登戸区画整理事務所）

3 結果の概要

意見提出数（意見件数）		19通（105件）
内 訳	電子メール	15通（89件）
	ファックス	2通（6件）
	郵 送	1通（5件）
	持 参	1通（5件）

4 御意見の内容と対応

ビジョン案に関する御意見としましては、災害に対する安全性をはじめとする防災環境の改善や居住地としての質の向上を求める御意見、建物用途、基盤整備に関する要望などが寄せられました。寄せられた御意見のうち、災害に対する安全性をはじめとする防災環境の改善や居住地としての質の向上を求める御意見等を踏まえ一部修正を行うとともに、関連データの時点修正等を行った上で、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区まちづくりビジョンを策定します。

【対応区分】

- A 御意見を踏まえ、当初案に反映させたもの
- B 御意見の趣旨が案に沿ったものであり、御意見を踏まえ取組を推進するもの
- C 今後の取組を進めていく中で参考とするもの
- D 案に対する質問・要望の御意見であり、案の内容を説明するもの
- E その他

項目	A	B	C	D	E	計
(1) ビジョン全般に関すること		4	1	4		9
(2) 位置づけ・まちの現状等に関すること				9		9
(3) 登戸・向ヶ丘遊園が持つまちの魅力に関すること			1	8		9
(4) まちの将来像とまちづくりの視点に関すること	3		5	13		21
(5) まちの概念図に関すること		1	4	10		15
(6) 将来像の実現に向けた取組に関すること		5	9	9		23
(7) その他			1	14	4	19
合計	3	10	21	67	4	105

5 具体的な意見の内容と市の考え方

(1) ビジョン全般に関すること（9件）

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
1	これまで実施してきた登戸区画整理事業が終盤を迎え、当該エリアの将来の方向性を見だした素晴らしい計画だと感じました。コロナ禍で大変な時期とは思いますが、ご尽力いただきますようお願いいたします。	本ビジョンにある「まちの将来像」の実現に向けて、まちづくりに関わる多様なステークホルダーと意見交換を行うなど、連携を深めながら、効率的かつ効果的なまちづくりを進めてまいります。	B
2	地域住民、地権者だけでなく、生田緑地やばら苑、美術館やミュージアム等の関係者や小田急電鉄など多くの方にご協力いただき、ぜひ実現されますように期待しております。		
3	登戸、向ヶ丘遊園駅周辺がいま土地開発の途上で統一感がない虫食い状態になってい		

	<p>ます。このようなビジョンが提案されたことを有難く思います。これに基づいてよりよいまちづくりができることを願っています。</p>		
4	<p>令和7年度の<u>登戸土地区画整理事業が完成した後も継続される内容と存じますので、持続いただけることを期待致します。</u></p>	<p>本ビジョンの取組期間は、<u>周辺のまちづくりの誘発が期待される期間である10年間</u>としていますが、<u>まちの将来像については、「川崎市都市計画マスタープラン多摩区構想」とあわせ概ね30年後の将来を見据えたものとしております。</u></p> <p>本ビジョンに掲げる<u>まちの将来像の実現に向け、取組を推進してまいります。</u></p>	<u>B</u>
5	<p>脱炭素、再生可能エネルギーについて、地域全体で取り組むような仕組みがあるとひとつのモデルケースにもなるように思いました。</p>	<p>本ビジョンでは、多摩川や生田緑地の自然環境を最大限活かし、水、みどり、まちが一体となったまちづくりを進めていくこととしています。また、まちづくりの視点の一つとして、まちに関わるすべての人が新たな価値をつくりだすとし、環境にやさしく自然環境との共存を意識した誰にでもやさしいまちづくりをめざすことを掲げています。こうした方針に基づき、基盤整備や権利者による建物の更新などの様々な機会を捉えながら、脱炭素社会の実現にも資する取組を進めてまいります。</p>	D

6	<p>持続可能なまちづくりを目指すため、地域住民だけでなく、SDGsの達成を目的に地域の企業がまちづくりの担い手となれるような仕組みづくりを行ってほしいと思います。</p>	<p>本市は、平成31(2019)年2月にSDGs推進に関する基本的な方針として「川崎市持続可能な開発目標(SDGs)推進方針」を策定しております。本方針では、持続可能なまちづくりや、誰一人取り残さないことなどを強く意識した取組を進めるとともに、各施策の連携や多様なステークホルダーとの連携を図ることにより、経済・社会・環境の三側面の調和や総合的な向上を目指した取組を推進することとしています。</p> <p>本ビジョンにおいても、まちづくりの視点4に「まち」に関わるすべての人が新たな価値を作り出し、地域をおもしろくすることを示しているところであり、生活スタイルの変化や社会情勢等の変化を見極めながら、SDGsの理念等を踏まえ、地域住民や民間事業者とも連携し、魅力あるまちづくりを推進してまいります。</p>	C
7	<p>今後、様々な分野でデジタル化が進み、デジタルを有効に活用できるまちが求められると思います。対面も大切だが、何らかの理由で活動範囲が限られていたり、自宅で長時間過ごしている人々が、デジタル化を通して意思疎通や共有の学習などを行い、自己を高めていくことはとても大切だと思います。このことにより、高齢者が生きがいを持ったり、孤独死を防ぎ、若年層も孤立化せず健全に社会に関わっていくことが促されると思います。周辺の全ての住民が、より豊かな生活につながるようなまちづくりとなってほしいと思います。</p>	<p>本ビジョンにおいて、まちづくりの視点4に「まち」に関わるすべての人が新たな価値を作り出し、地域をおもしろくすることを示しているところであり、デジタル化の進展を含め、生活スタイルの変化や社会情勢等の変化を見極めながら、地域住民や民間事業者とも連携し、魅力あるまちづくりを推進してまいります。</p>	D
8	<p>都市計画マスタープラン多摩区構想の土地利用の方針にありますとおり、以下の通り加筆することを提案いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活拠点として、独居高齢者の増加 	<p>本ビジョンは、地域生活拠点にふさわしいまちの実現に向けて、地域住民、民間事業者及び行政等のまちづくりに関わる多様なステークホルダーが、目</p>	D

	等の超高齢社会の到来を見据え、地域全体で見守りや交流を形成するまちづくりをめざしていきます。	指すべきまちの将来像を共有し、それぞれが連携してまちの魅力や賑わい創出に向けた取組を推進することにより、まちの価値向上につなげていく基本的な指針として策定するもので、具体的な取組につきましては、地域の多様な主体と連携を図りながら進めてまいります。	
9	都市計画マスタープラン多摩区構想の都市環境の方針にありますとおり、以下の通り加筆することを提案いたします。 ・土地の高度利用を図る地域において、地球環境に配慮した都市づくりを誘導するため、民間活力や創意工夫を最大限活かす観点から、都市の成長に寄与する幅広い環境貢献の取組を評価し、都市の成長を促す取組を推進することとしています。都市機能の効率な集約化に合わせて、エネルギーの自立分散・効率的利用を推進し、環境負荷の少ない都市開発を誘導します。また、街路樹や公園、緑地の整備、屋上緑化や壁面緑化等の都市緑化の取組を推進することとしています。		

(2) 位置づけ・まちの現状に関すること (9件)

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
10	「生田緑地の来場者数」の記載について、いっぱい来ていると書かれているが、人数が正しいのか疑問です。	「生田緑地の滞在者の居住地」につきましては、モバイル空間統計【データ提供元：(株)NTTドコモ、(株)ドコモ・インサイトマーケティング】から引用しているもので、生田緑地には、市内だけでなく、市外からも多くの方が来場されることの見込みとして、掲載しているものです。	D
11	小田原や箱根などの観光地へのアクセス性にも優れていて何が得になるのでしょうか。登戸から小田原や箱根に行く人数を記載して優れているとアピールしてください。	観光地へのアクセス性については、住まわれる方などにとっての利便性の観点から、立地特性として整理したものです。	D
12	「本地区は、中央自動車道や東名高速道路のインターチェンジまで車で約20分の位置にあり、都心や郊外へのアクセス性の良さなど、利便性の高い立地環境にあります。」という記載について、20分は遠いと	アクセス性についての記載につきましては、本地区の立地特性をわかりやすく補足するために、所要時間を見込みとして記載したものです。	D

	感じますが何分ならアクセス性がよいのかを記載してください。		
13	「登戸駅の乗降者数は年々増加しており、小田急小田原線とJR南武線それぞれ約16万人以上となっており、新百合ヶ丘駅の乗降者数よりも多くなっています。」という記載について、8割は素通りで駅から出ません。それをきちんと書いてください。	都心へのアクセス性が優れていることや鉄道利用者が多いということは、多くの方がまちに立ち寄る可能性があり、ポテンシャルを秘めているということだと考えております。本ビジョンに基づきまちの魅力や賑わい創出に向けた取組を推進することにより、本地区を訪れる人が増えるよう取り組んでまいります。	D
14	多摩区に住んでいない人が通過するだけでポテンシャルなのではないでしょうか。登戸駅に降りてもらうことを期待しているのでしょうか。		
15	「登戸駅の都心へのアクセス性が向上しています」という記載について、ポテンシャルと考えている理由をしっかりと書いてください。		
16	「多摩区の路線バスについては、地域の大切な交通手段として、地域の特性や需要等に応じたネットワークの形成が図られています。」という記載について、かなり広範囲で記載されており、住民の認識と差があります。きちんと精査して書くようにしてください。宿河原駅北口にはないです。ピンクの範囲は駅ですか。路線バスのところに書くのは誤解しかありません。	掲載している路線バス網図は、路線バスの経路や鉄道駅の交通環境を示すために掲載しております。図中のピンクの範囲は駅から750m圏を表しており、宿河原駅北側については登戸駅方面に向かう路線バスの経路を示しております。	D
17	「多摩区民を対象とした都市イメージ調査（多摩区の魅力について）では、「自然が豊か」という回答が最も多く、その他はイベント・名所・施設として、多摩川や生田緑地の自然環境や藤子・F・不二雄ミュージアムなどの文化施設が挙げられています。」という記載について、自然が豊かしかありません。自然以外で何か取組をしないのでしょうか。	多摩区の魅力について、「自然が豊か」という回答の他に、多摩川や生田緑地の自然環境や藤子・F・不二雄ミュージアムなどの文化施設を有することが挙げられており、本ビジョンに基づき自然資源の他、これらの地域資源を活かしたまちづくりを進めてまいります。	D
18	高津区、中原区、幸区、川崎区などにも多摩川はあります。ポテンシャルになる理由を教えてください。東京にもあります。	多摩川は、市民の憩いの場、アクティビティの場として多くの人々に利用されており、都心に近い立地にありながら、市街地に近接した貴重な自然資源	D

		を有すことは本地区においてもポテンシャルであると考えております。	
--	--	----------------------------------	--

(3) 登戸・向ヶ丘遊園が持つまちの魅力に関すること (9件)

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
19	多摩川に渡しがあったことは掲示板で知らせ、イベントで残しているが、 <u>旧津久井道の宿場として登戸の痕跡を残せないまま、町が整備されてしまっています。</u>	<u>登戸・向ヶ丘遊園のそれぞれが育んだ歴史や文化に触れ、まちへの愛着を感じることができるまちづくりを進めていきたいと考えております。</u>	D
20	宿場町なのに宿がありません。時代の流れかと思えます。よって継承することは不可能です。 また別の考えで発展するようにしてください。今のところ全く案が見えません。	具体的な取組の一例として、登戸の歴史的象徴である旧津久井道等の歴史文化資源を後世にまちの記憶として残していけるように、道路空間等において <u>歴史パネルの設置を行うなど、多くの</u>	
21	「津久井道をまちの記憶として残す取組を推進します」と記載があるが、今何をしているのでしょうか。	<u>人にまちの魅力を発信しており、引き続き、こうした取組を推進してまいります。</u>	
22	個性あるまちの資源として、既存の果樹園が維持されるようにしてください。農地は地域の貴重な資源として、宅地化されないようにしてください。 更に地産地消が進むことも期待します。JAと協力してセレサモスの誘致や、小売店舗との連携で、地産地消を促進し、住んでいる人が農地を強く意識できる仕掛けを設けてください。	本地区周辺の果樹園は、収穫体験ができるなど多くの人を惹きつける貴重な地域資源と考えております。また、川崎市では農林漁業と調和した良好な都市環境を形成する目的で、市街化区域内において適正に管理されている農地を、計画的かつ永続的に保全するため、都市計画において生産緑地地区の指定を行っており、登戸土地区画整理事業区域内や周辺地域に残る一部農地についても、生産緑地地区の指定がされております。引き続き、地産地消や都市農業の振興等に関する本市の農業施策とも連携を図りながら、本ビジョンに示すとおり、まちのポテンシャルを最大限活かしたまちづくりを推進してまいります。	C
23	まちの変遷に示した露店が並ぶ様子の写真は明治時代でしょうか。江戸時代でしょうか。	登戸は江戸時代以降、多くの店等が立ち並び、活気にあふれた宿場町として栄えていました。なお、写真については昭和初期のものであります。	D

24	「遊園地までのモノレールに加えて、沿道の桜並木など、多くの人々が楽しさ、高揚感を感じながら、遊園地、生田緑地へ向かっていました。」の記載について、どこの桜並木のことを言っていますか。きちんと場所を書いてください。	当該部分の写真や説明文については、当時の状況などを少しでも感じ取っていただけるよう、イメージとして掲載しており、内容や写真は「多摩区ふるさと写真集」、「写真アルバム川崎市の昭和」から引用しているものです。	D
25	「モノレールが開業し、向ヶ丘遊園駅から遊園地まで多くの人々と夢を乗せて走っていた。」の記載について、根拠を教えてください。		
26	「宙と緑の科学館や、日本民家園、藤子・F・不二雄ミュージアム、岡本太郎美術館など多くの魅力ある文化・観光施設があります。」の記載について、何個以上が多くなるのでしょうか。	本地区ではまとまったエリアに、貴重な自然と様々な文化施設が集積しており、この地区のポテンシャルを表現するため記載いたしました。	D
27	もっと街の魅力を書いてください。少しも住みたいと思う街ではないと考えます。	歴史を継承し融合するとともに、多摩川、生田緑地という豊かな自然環境や様々な文化施設など、まちのポテンシャルを最大限活かして、多くの方に住みたいと思っていただけるよう地域住民や民間事業者等のまちづくりに関わる多様なステークホルダーと連携して、「まちの将来像」の実現に向けたまちづくりを推進してまいります。	D

(4) まちの将来像とまちづくりの視点に関すること (21件)

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
28	点在する地域の魅力を、ドラえもん、フェス、スタンプラリー、周遊バス、散歩コース、新しい交通手段等で繋ぎ、一体化する。および、イベントスペースを確保する。	本ビジョンに示したまちづくりの視点3に基づき、「歩いて楽しく、移動が楽しく、ふらっと行きたくなる」まちづくりのため、路線バス、タクシーだけでなく様々な移動手段が使いやすい駅前づくりに取り組むとともに、「賑わいの核」の形成に向け、まちをおもしろくする駅前イベント空間、ゆとりのあるオープンスペースの創出などの取組を進めてまいります。	C
29	民間活力を活かすことは必要です。その一方で、これまでの災害をふまえ地震や水害	地域にお住まいの方などが、 <u>安心して生活を営める</u> ということは、まちづく	A

	<p>など様々な対応に備えた安心したまちづくりが大切です。帰宅困難な状況が生まれた場合は、たくさんの人々が駅周辺に避難することになります。また、その際には新型コロナウイルス感染症等の複合した対応も必要になります。災害にも十分に対応できこそ、まちのランドマークとして市民から親しまれるものとなると思います。</p>	<p>りの基本であり、「川崎市都市計画マスタープラン多摩区構想」においても、都市防災分野の基本方針を位置付けているところです。<u>その前提に立ったうえで魅力あるまちづくりを進めていきたいと考えております。</u></p> <p>また、本ビジョンのまちの将来像に示すとおり、「人と人」「人とまち」「まちと自然」が調和し、市民生活の質を向上させる、住み続けたいと思えるまちを目指していく必要があると考えております。</p> <p>このため、御意見を踏まえ、<u>本市の考え方をより明確にするため、6のまちの将来像に「安心して暮らし続けられるまちを目指すとともに」、「居心地がよく」を追記するとともに、まちづくりの視点に「誰もが使いやすく、災害時等の避難場所となるオープンスペースや公園が身近にあるなど、安心して快適に住み続けられるまちづくり」を追記します。</u></p> <p>また、合わせて、<u>2のまちづくりビジョンの位置づけに、「川崎市都市計画マスタープラン多摩区構想」の補足として、「登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区や生田緑地等をはじめとした人が多く集まる場所の安全確保対策を検討し、管理者による安全対策を促進するとともに、災害時の円滑な避難をめざし、広域避難場所や耐震化された避難所など、安全に避難できる場所の確保に努めます。」を追記します。</u></p>	
30	<p><u>居住地としての生活環境が良くなり、誇りをもって住み続けられる町とする。</u></p> <p>といった視点を入れてください。</p>		
31	<p>居住者が住み続けやすくなるための取組を加えてください。</p>		
32	<p>商店街などがなく、まちの活気が感じられない。登戸のシビックプライドを活用して、住民がまちの担い手となるような地域循環共生圏の構築が必要だと思います。具体的に横浜型リビングラボのような産官学民が連携した共創のプラットフォームづくりを</p>	<p>向ヶ丘遊園駅前にある区役所通り登栄会商店街では、商店街沿いの土地所有者や借地権者、一部テナントの方々ともまちづくり検討会を設立し、商店街や地域の活性化に向けて検討を進めております。引き続き、こうした地域</p>	C

	行なってほしい。	の取組を支援するなど、本ビジョンのまちづくりの視点4に示すとおり「まちに関わるすべての人が新たな価値を作り出し、地域をおもしろくする」まちづくりを進めてまいります。	
33	大規模商業施設や遊園跡地開発と違った魅力の商店街を整備してほしい。		
34	歩いて楽しくするために、特に向ヶ丘遊園駅から生田緑地までを緑豊かな、幅員の広い歩道となるようにしてください。特にダイエー跡地の開発計画と連動して、生田緑地へのコリドーとして緑豊かな歩きやすい歩行空間を確保できるようにしてください。	本ビジョンでは、向ヶ丘遊園駅周辺から生田緑地周辺までなどを、緑などの自然が感じられ、来街者の期待感を高める自然や、文化、観光の拠点をつなぐ軸として「自然・文化・観光の軸」に位置付けており、緑を感じられる移動したくなる通りを目指し、安全な歩行空間の形成などに取り組んでまいります。 また、将来像の実現に向けた取組を進める中で、多摩川、生田緑地とのつながりに配慮し、歩いて移動したくなる駅とまちをつなぐ安全で快適な歩行者空間づくりなどに取り組んでまいります。	C
35	登戸から生田緑地、宿河原駅から生田緑地を目指す人の動線の誘導もお願いします。またその際には、歩車分離のされていない、シェアードスペースを基本とする道路の利用の促進が可能な道を指定し、居住地としての道路の利用と、生田緑地への動線の利用との両者がうまく共存できるようにしてください。	本ビジョンでは、向ヶ丘遊園駅周辺から生田緑地周辺までなどを、緑などの自然が感じられ、来街者の期待感を高める自然や、文化、観光の拠点をつなぐ軸として「自然・文化・観光の軸」に位置付けており、緑を感じられる移動したくなる通りを目指し、安全な歩行空間の形成などに取り組んでまいります。 なお、本ビジョンは、本市の地域生活拠点である登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区を中心に作成しておりますが、宿河原駅から生田緑地までのアクセス性につきましては、周辺の基盤整備の状況や開発動向を踏まえ、検討してまいります。	D
36	まちの将来像とまちづくりの視点以下の通り加筆することを提案いたします。	本ビジョンは、地域生活拠点にふさわしいまちの実現に向けて、地域住民、民間事業者及び行政等のまちづくり	D

	<p>視点5 災害に強く環境に優しく安心して暮らせる</p> <p>○地震や風水害の等の万一の災害にも、居住者や来街者の避難生活を維持できるよう、電源が多重化・自立分散化された防災力の高いまちづくり</p> <p>○太陽光発電等の再生可能エネルギーと自立分散型電源を組み合わせた自然と調和しつつ最適制御技術により安定したエネルギーが使える自然共生型のまちづくり</p> <p>○ひとり暮らしの高齢者でも安心して暮らせる見守り環境が整備されたまちづくり</p>	<p>に関わる多様なステークホルダーが、目指すべきまちの将来像を共有し、それぞれが連携してまちの魅力や賑わい創出に向けた取組を推進することにより、まちの価値向上につなげていく基本的な指針として策定するものです。</p> <p>本ビジョンに記載がない取組に関しましても、都市計画マスタープランを含めたその他の計画に基づき、着実に取り組んでまいります。</p> <p>なお、本市では、民間事業と連携し、日常の業務の中で住民の異変に気付いた場合に市へ連絡していただく見守り活動を行う「川崎市地域見守りネットワーク事業」等の取組を進めております。</p>	
37	<p>多摩区構想の都市防災の方針にありますとおり、自然災害（地震、風水害）においても、都市機能の維持を確保するため、以下の通り加筆することを提案いたします。</p> <p>・さらに、防災拠点となる重要拠点においては、地震や風水害等の自然災害による長期電源途絶等に備え、再生可能エネルギーや高効率自立分散型のエネルギーシステムの導入により電源の多重化を図り、都市機能の維持を図ります。</p>		
38	<p>多摩区構想の都市防災の方針にありますとおり、災害時は公助だけでなく、自助・共助（互助）の取組が重要になることから、以下の通り加筆することを提案いたします。</p> <p>・災害への対応は公助だけでなく、自助・共助（互助）の取組が重要になることから、災害時における協力体制を整えとともに、災害への備えについての周知・啓発を行い、地域でお互いに助け合う仕組みづくりに取り組むことで、地域防災力の向上を図ります。</p>		
39	<p>ビジョン案においては文教都市を目指した打ち出しが弱いので、文教都市としてのステータス確立も基本コンセプトに盛り込んで頂きますようお願いいたします。</p>	<p>大学については、地域資源の1つと考えており、まちづくりの視点4に示したとおり、大学生も含め、地域に関わる全ての人々が主役となり作り出すまちづくりに取り組んでまいります。また、文教都市としてふさわしい地域</p>	D

		社会づくりを目指し、多摩区にゆかりのある専修大学、明治大学、日本女子大学と川崎市（多摩区）との協定締結により設立された、多摩区・3大学連携協議会を中心に、引き続き、大学の持つ知的資源や人材を活用して、地域社会との連携に積極的に取り組んでまいります。	
40	学生がイベントや集会などの活動も自由に行える環境を作り、駅周辺が単なる通学路で終わるのではなく、生活が楽しめるまちになると活気あふれると思います。その意味でも学生もまちづくりに参加できる体制が必要だと思います。経済的に困難な学生もいるでしょうから、「学生食堂」や「銭湯」などの支援もできると良いと思います。川崎市の住民となり働いてもらい、根付いてもらえればなおさら良い効果があります。	本ビジョンに掲げたまちづくりの視点4に示すとおり、子育て世代、シニア、学生など世代を超え、地域に関わる全ての人々が主役となり、新たな価値を作り出すまちづくりを進めてまいります。なお、多摩区では、文教都市としてふさわしい地域社会づくりを目指し、多摩区にゆかりのある専修大学、明治大学、日本女子大学と川崎市（多摩区）との協定締結により、3大学連携協議会を設立し、大学の持つ知的資源や人材を活用して、地域社会との連携に積極的に取り組んでまいります。	C
41	「まちの将来像に、当地区は、「集う・訪れる・暮らす・働く」宿場町として人々のつながりや活気にあふれていた登戸」の記載について、2000年代は上記のような感覚はありません。きちんと分析をお願いします。	本ビジョンに示したまちの将来像等は、概ね30年後の将来を見据えたものとして掲げております。多様な立場の方々と連携してまちづくりを推進するために、共感していただけるまちの将来像を検討する上で、登戸・向ヶ丘遊園の歴史的特徴やまちのポテンシャルを示すことが必要と考え、登戸が宿場町として栄えていた事実等を記載しているものです。	D
42	結局登戸駅と向ヶ丘遊園駅のどちらが多摩区の顔ですか。はっきりと決めてください。	登戸駅周辺と向ヶ丘遊園駅周辺については、両地区とも人々を惹きつける、駅前にふさわしいウェルカムゾーンとなる都市活動拠点の形成を目指し「賑わいの核」と位置付けております。	D
43	向ヶ丘遊園駅を生田緑地の玄関口としているが、幾つもの箇所から生田緑地に入ることができるように入口整備されたことから、登戸駅と向ヶ丘遊園駅とは、「駅」としての役割が違ってきているので一体として	なお、登戸・向ヶ丘駅周辺地区は、川	

	配慮する必要がないと思います。	崎市総合計画においても北部エリア	
44	川崎区は川崎駅、中原区は武蔵小杉駅と一つなのに対し、多摩区は登戸駅・向ヶ丘遊園駅と二つにしている理由が不明確であり、今回の方針の中にどちらかに絞る必要がある。仮に絞らないのであれば明確な理由を示してもらいたい。	の「地域生活拠点」と位置付けており、多摩区の拠点として、JR南武線と小田急小田原線が結節する立地的な優位性や、多摩川や生田緑地の玄関口として、それぞれの駅周辺の特徴を活かし、都市機能がコンパクトに集約した魅力ある拠点形成を目指しております。	
45	「おもてなし空間イメージ」の記載について、本当にこのような空間ができると考えて良いのでしょうか。令和7年に検証してもらってもよいのでしょうか。	本ビジョンのまちの将来像、まちづくりの視点については策定から概ね30年後の将来を見据えたものとしております。写真は御覧になる方がイメージしやすいように掲載しているものです。「まちの将来像」の実現に向け、まちづくりに関わる多様なステークホルダーと共有し、連携して、来街者を迎え入れるおもてなし空間づくりに取り組んでまいります。	D
46	「歩いて楽しく、移動が楽しく、ふらっと行きたくなる」という記載について、できるのであれば何で30年以上も放置してきたのでしょうか。	登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区においては、これまで低層の木造住宅が密集し、狭い道路幅員等による防災性や生活環境の課題があることから、土地区画整理事業に重点的に取り組み、道路等の防災性向上を図ってまいりました。	D
47	「路線バス、タクシーだけでなく様々な移動手段が使いやすい駅前づくり」という記載について、様々な移動手段は自転車だというのはやめてください。	また、移動につきましては、ビジョンに掲載した多様な移動手段等も含めて、ビジョンに掲げるまちの将来像やまちづくりの視点をまちづくりに関わる多様なステークホルダーと共有し、連携して取り組んでまいります。	
48	「子育て世代、シニア、学生など世代を超え、地域に関わる全ての人々が主役となり作り出すまちづくり」の記載について、どうやって主役になったかの判断をするのでしょうか。	本内容については、まちづくりに関わった地域の方々が充実感を持ち、継続して活動いただくことを目指し、記載しているものです。	D

(5) まちの概念図に関すること (15件)

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
49	当地に大規模商業施設を誘致し、人を呼び込める核となる施設を作ってほしい。	本ビジョンに示したまちの概念図に位置付けた「賑わいの核」の形成に向け、人々をまちに惹きつける、駅前にふさわしいウェルカムゾーンとなる都市活動拠点づくりに取り組んでまいります。	D
50	「賑わいの核の形成」の記載について、イメージ図をぜんぜん発表しないので何を作りたいのか、決まっていないのか、どうなのでしょう。		
51	この資料からは惹きつける魅力が無いです。追加願います。	具体的には、民間活力を活かし、都市計画手法等の様々な制度を複合的に活用した建築物の共同化など土地の高度利用を図ることで、駅前のまちのランドマークとなる土地利用を誘導するとともに、駅から幹線道路の横断や、多摩川、生田緑地とのつながりに配慮し、歩いて移動したくなる駅とまちをつなぐ安全で快適な歩行者空間づくりなどの取組を推進します。	
52	向ヶ丘遊園駅南口に高層ビルは不要です。		
53	駅前商業施設の環境について 登戸・向ヶ丘遊園両駅前はアルコールの提供を伴う飲食店の占める割合が非常に多く感じられ、まちづくりビジョンからは大きく乖離しているように感じます。		
54	まちの概念図で、「登戸駅と多摩川」、「向ヶ丘遊園駅と生田緑地」はそれぞれ「自然・文化・観光軸」で結ばれているが、両駅間にも「自然・文化・観光軸」を配置して、多摩川から生田緑地まで繋がる軸とすべきではないか。繋げることによって多摩川と生田緑地を移動したくなり、より自然・文化・観光を楽しめる街となるのではないのでしょうか。	本ビジョンに示す「人と人」「人とまち」「まちと自然」の調和を図りながら、つながりを強め、水、緑、まちが一体となったまちづくりを進めるという「まちの将来像」を踏まえ、多摩川や生田緑地等とのつながりを強める「自然・文化・観光軸」、駅前の賑わいを形成する「賑わいの核」、両駅を結ぶ「賑わい交流軸」などを位置付けており、両軸とのつながりも考慮し、取組を進めてまいります。 まちの将来像を実現するため、まちづくりに関わる多様なステークホルダーと連携し、「核」「軸」づくりに向けて、ハード、ソフトの両面から取組を推進してまいります。	D
55	賑わい交流軸の形成について、趣旨に賛同します。特に将来像を考えていく場合は、ハード的な開発に固執せず、「人と人」とのつながりをどのように作っていくのかを中心に考えていく必要があると思いま	まちの将来像を実現するため、まちづくりに関わる多様なステークホルダーと連携し、まちの概念図に示した「核」「軸」づくりに向けて、ハード、ソフトの両面から取組を推進してま	B

	す。	います。	
56	自然・文化・観光軸の形成の取組の中に、観光案内所・情報交流拠点の設置を位置付けてください。	ビジョンに示す「賑わいの核」「自然・文化・観光軸」の形成に向けては、本地区の有する多摩川や生田緑地という豊かな自然環境や様々な文化施設など、まちのポテンシャルを効果的に案内、情報発信することも重要であると考えておりますので、今後、ビジョンに掲げた将来像の実現に向けて、権利者や商店街、鉄道事業者等との意見交換を行い、取組を具体化してまいります。	C
57	多摩区の顔となるために、観光案内所や地域住民の情報交流拠点を、登戸駅及び向ヶ丘遊園駅に設けてください。		
58	向ヶ丘遊園駅前には観光案内所がありません。登戸駅には役所の出先機関としての案内所が、観光案内所の役割も担っていると考えます。 2023年度に向ヶ丘遊園跡地の利用計画の竣工時には、向ヶ丘遊園駅前にその案内所のような場所ができる事を期待しています。		
59	観光農園やバラ園もあります。また、多摩川もあります。これらの自然豊かな観光資源を互いに効果的に結びつける工夫が必要と感じます。例えばこれらをまとめたホームページやアプリを開発したり、紹介する案内所を駅に設ける等。地元の事業所の意見をもとに設置したら良いのではと思います。		
60	自然・文化・観光軸ということですが、登戸駅の掲示板の前はロープが貼ってあり、誰も見ない状況です。令和7年から開始するのではなく、言葉だけではない、行動に関する指針も示すべきです。	登戸駅前の「川崎歴史ガイド 津久井道と枳形城址」前のロープにつきましては、歴史ガイドを御覧いただけるよう撤去いたしました。	D
61	「まちの概念図」の記載について、登戸駅と向ヶ丘遊園駅の北口だけがまちなのでしょうか。	本ビジョンは、土地区画整理事業区域内だけでなく、区域外も含めた内容としており、多摩川や生田緑地を含めた一体的なまちづくりに取り組んでまいります。なお、まちの概念図において、登戸駅、向ヶ丘遊園駅周辺は賑わいを形成する「賑わいの核」として位置付けております。	D
62	「2つの駅前空間をつなぐ軸」の記載について、中途半端です。是正してください。	本ビジョンに示す、登戸駅、向ヶ丘遊園駅前空間をつなぐ「賑わい交流軸」の形成に向けて、人々の往来を促し、	D

		まちを活性化させる取組を推進してまいります。	
63	「自然・文化・観光軸の形成」の記載について、今と何が違うのかよく分かりません。	本ビジョンで示す「自然・文化・観光軸」は、生田緑地や藤子・F・不二雄ミュージアムなどの自然や文化、観光の拠点をつなぐ重要な動線であることから、本ビジョンに基づき、地域や企業等の多様なステークホルダーと連携し、緑などの自然がより一層感じられ、人々がそこに向かいたくなるような、まちの顔にふさわしい花と緑の連続性のある空間づくり等に取り組んでまいります。	D

(6) 将来像の実現に向けた取組に関すること (23件)

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
64	「多摩川や生田緑地との繋がりに配慮」ではなく、それぞれに訪ねたい魅力が都度あれば、それぞれから向かう経路も自然と生き、生きるように行政は継続支援策を講じることになるのではないのでしょうか。	多摩川や生田緑地等のそれぞれの魅力を高めることも重要と考えていることから、「自然・文化・観光の核」として位置付けており、引き続き、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区が誇る魅力にあふれ、大切に育てていく拠点づくりに取り組んでまいります。また、多摩川や生田緑地とのつながりを強める「自然・文化・観光軸」については、そうした核に誘う「わくわく」のある通りなどをイメージとして取り組んでまいります。	C
65	人が来て歩いてほしいならば、所々にベンチやゴミ箱の設置、休憩できるスペースやお店がある方がいいと思います。	本ビジョンのまちづくりの視点3や「7まちの概念図」の内容に沿った、様々な魅力ある地域資源を歩いて移動したくなる仕掛けとともに、花や緑があふれ、ホッと一息つける街並みづくりに取り組んでまいります。	C
66	どこからも駅に出かけることができるようにアクセスをしっかりと作り、寄り合える場所(ホッと一息つける所)があれば町は生き活性化が図られると思います。		
67	シンプルで良いので、市外にも誇れる緑化や木質化やお洒落さも大切にしたいです。		

	お洒落なカフェや BBQ 場などの身近なお出かけスポットとしての充実も期待しています。		
68	将来像の実現に向けた取組の自然・文化・観光軸の形成については、記載の内容に加えて、登戸駅及び向ヶ丘遊園駅から生田緑地を結ぶ主要なアクセス動線において「藤子・F・不二雄ミュージアム」や「岡本太郎美術館」等の世界観を感じられる道路空間の整備をお願いします。	登戸駅駅前広場やデッキをはじめ、藤子・F・不二雄ミュージアムのアクセス動線等には、キャラクターのモニュメントを配置しているところです。御提案の内容につきましては、民間施設や道路管理者等との十分な協議調整を要することから、今後、自然・文化・観光軸の形成に向けた取組を進める中で、参考とさせていただきます。	C
69	登戸土地区画整理事業の現状を見れば、ビジョン案の「継承したい歴史とポテンシャル」や「豊かな自然や文化に包まれた、活気とつながりのある心が弾むまち」の姿を思い浮かべることが出来ません。登戸土地区画整理事業計画の目標にも、「津久井道などの歴史・文化が感じられる街なみづくり」や「文化が感じられ緑あふれる空間形成を図る」ことが掲げられていた30年後の結果と重なってしまいます。	本ビジョンは、地域生活拠点にふさわしいまちの実現に向けて、地域住民、民間事業者及び行政等のまちづくりに関わる多様なステークホルダーが、目指すべきまちの将来像を共有し、それぞれが連携してまちの魅力や賑わい創出に向けた取組を推進することにより、まちの価値向上につなげていく基本的な指針としての役割を担うものと考えております。	D
70	このビジョン案は全体としてよくまとまっていると思います。ビジョン案の進め方については「概ね10年間の取組を推進するための指針」に基づき、「まちの将来像とまちづくりの視点」や「まちの概念図」で方向性も示されています。その内容はなるほどとある程度理解できる記述になっていますが具体性が欠如しています。	今後、ビジョンの実現に向けた取組を推進するとともに、権利者や商店街、鉄道事業者等との意見交換を行い、ビジョンに掲げた将来像の実現に向けて、取組を具体化してまいります。また、本市としましては、地域主体のまちづくり検討会等を支援しながら、まちづくりの機運の醸成に努め、その高まりに合わせて、地区計画等による都市計画手法を活用したまちづくり誘導等を進めていきたいと考えております。	
71	駅前については商業の発展をイメージすることはできるのですが、登戸駅と向ヶ丘遊園駅を結ぶ「賑わい交流軸」が本当に賑わいを生むことができるのか？住民任せでは難しいと思いますので行政からの指導や支援があると良いのではないかと思います。		
72	「まちづくりに関わる多様なステークホルダーと、意見交換を行うなど、連携を深		

	<p>めながら、効率的かつ効果的にまちづくりをすすめていきます」との記述だけではあまりにも責任感が欠如していると思わざるを得ません。</p> <p>どうか行政としてこれまでの登戸土地区画整理事業の経験と実績に基づいて、もう一步踏み込んで具体的な計画をビジョン案に示していただくことを切に望みます。</p>		
73	<p>「将来像の実現に向けた取組」の取組プロセスは、短期（概ね5年間）と中長期（概ね10年間）に区分されていますが、この内容では計画倒れになり、まるで「砂上の楼閣」ともいうべき実現不可能な計画と思われる。ビジョン案は「机上の空論」ともいえるでしょう。頭の中だけで描いた事柄であって、5年後、10年後のプランに事業実現を確実にどのように進めていくのか、その道筋が具体的に示されていません。これでは実際には到底あり得ない実現不可能な計画になってしまいます。</p>		
74	<p>地域住民にとって、どのようなまちを望んでいるのか広く意見を集約して明らかにしてほしいと感じました。単純に人口が増加しているからと駅周辺を再開発するのなら、他の地域の開発と変わらず特色が無くなってしまい、地域住民としては寂しいと感じると思います。</p>		
75	<p>生田緑地の周辺には急坂があり、歩いて散策していくには少し負荷がかかるように思います。自然と健康を兼ねて、バードウォッチングやスタンプラリーなどを取り入れて、楽しめる環境にさせていただくと、より親しみが増すように思います。</p>	<p>本ビジョンでは、多摩川や生田緑地の自然環境を最大限活かし、水、緑、まちが一体となったまちづくりを進めていくこととしています。また、まちづくりの視点の一つとして、まちに関わるすべての人が新たな価値をつくりだすとし、環境にやさしく自然環境との共存を意識した誰にでもやさしいまちづくりをめざすことを掲げています。</p> <p>今後、いただいた御意見も参考にしながら、本ビジョンに基づき、自然・文</p>	C
76	<p>生田緑地へ向かえば緑が多く自然が豊かな環境は魅力的であると思います。しかしながら、十分に環境整備されていない感じを受けます。散策道がありますが、林の手入れは不十分な部分も多く、歩くにも危険</p>		

	性を感じてしまいます。自然環境を残しつつ必要な整備をするべきと思います。	化・観光軸の形成などの取組を推進してまいります。	
77	川崎区に在住の市民でも来るような政策、川崎市役所職員が行きたいと思う街づくりにしてもらいたいです。そのためには職員アンケートでもやってもらいたいです。		
78	登戸駅や向ヶ丘遊園駅、生田緑地等の周辺の観光ポイントを巡る、周囲の街からのバスルートや本数など、周遊するアクセスも注目して欲しいです。	周辺の観光ポイントを巡るアクセス性につきましては、都市基盤の整備状況や周辺の開発動向を踏まえ、交通事業者や道路管理者とも協議調整を図りながら、検討してまいります。	C
79	登戸駅、向ヶ丘遊園駅を「賑わいの核」とされていることから、自慢のできる駅前になることを期待しています。	<u>まちの概念図に位置付けた「賑わいの核」の形成に向け、権利者や地域の方々とともに検討を進めながら、人々</u>	B
80	<u>区画整理により、道路や交通基盤が整備されましたが、個別に再築されており、まちの魅力を感じられない。一体的な面的な整備によるまちのシンボルづくりが必要だ</u> と思います。	<u>をまちに惹きつける、駅前にふさわしいウェルカムゾーンとなる都市活動拠点の形成に向けた取組を推進して</u> まいります。 具体的には、民間活力を活かし、都市計画手法等の様々な制度を複合的に活用した建築物の共同化など土地の高度利用を図ることで、 <u>駅前のまちのランドマークとなる土地利用を誘導するとともに、駅から幹線道路の横断や、多摩川、生田緑地とのつながりに配慮し、歩いて移動したくなる駅とまちをつなぐ安全で快適な歩行者空間づくりなどの取組を推進</u> します。	
81	向ヶ丘遊園駅は、生田緑地や向ヶ丘遊園跡地の事業地に行くわくわく感のある駅前広場・商業施設にしてほしいです。		
82	登戸駅～向ヶ丘遊園駅間において、賑わいが生まれるビジョンになっており、今後の新しいまちの発展を楽しみにしています。	「賑わい交流軸」の形成に向けては、沿道の権利者の方々等と将来像を共有し、実現に向けて連携して取り組んでまいります。	B
83	「賑わい交流軸」の道路空間活用イメージを見て、来訪者と居住者で「賑わい」をもてる空間が実現できることを期待しています。		
84	歩道と自転車道の充実が大前提だと思います。	本ビジョンは、地域生活拠点にふさわしいまちの実現に向けて、地域住民、民間事業者及び行政等のまちづくり	D
85	学生たちが大学に向かう通路が広さや安全性の上で整備が不十分だと思います。学	に関わる多様なステークホルダーが、	

	生が安心して生活し利用できる環境が必要だと思います。	目指すべきまちの将来像を共有し、それぞれが連携してまちの魅力や賑わい創出に向けた取組を推進することにより、まちの価値向上につなげていく基本的な指針として策定するもので、具体の取組につきましては、地域の多様な主体と連携を図りながら進めてまいります。	
86	今後進むとされる向ヶ丘遊園跡地に作られる総合施設や本案の街づくりに伴う、交通流入増加の可能性をより強くプランに盛り込んでいただきたいと思います。 「まち」を取り囲む幹線道路であったり、「まち」に巡らされるバスなど公共交通のルートなどについて、「まち」の変化に伴う交通量の変化を具体的に分析し、交通インフラのボトルネックとなる部分、また交通事故リスクの高まる部分について、精度を高めてご検討いただきたいと思います。		

(7) その他 (19件)

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
87	武蔵新城駅前には電柱が地中化されていて、とてもすっきりした景観となっています。また、災害の際にも危険を回避する効果があると考えられているようです。すでに計画されているかもしれませんが、再開発の際にはぜひとも導入していただきたいと思います。	登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区は、川崎市無電柱化整備基本方針における「重点エリア(無電柱化の基本的な考え方に基づき、本市が無電柱化を優先的に整備することが望ましいと位置付けるエリア)」に位置付けられており、基盤整備や周辺開発等にあわせ、歩道幅員が確保できる通りなど可能な箇所の無電柱化整備を推進してまいります。	E
88	ダイエー(昨年閉店)から登戸迄バスがないので、夏は歩くのに、暑くて大変です。出来れば、市営バスを通してほしいです。	高齢化の進展や市民ニーズの多様化などを踏まえ、地域交通の基幹的な役割を担う路線バスネットワークのあり方や今後の取組の方向性等を定めた「川崎市地域公共交通計画」を本年3月に策定し、重複路線等におけるバス事業者間の調整による運行の見直しや、長大路線における運行効率化により、バスの輸送資源を生み出し、道路や駅前広場などの基盤整備や周辺の開発事業の動向を捉え、効果的・効果的なバスネットワークの形成に向けた取組を推進してまいります。	D
89	ドラえもんのバスを途中で止めてほしいと言いましたができないと言われました。どうしたらできるのか、チャレンジすらしてません。		

		また、登戸駅から藤子・F・不二雄ミュージアムまでのバス路線が運行する道路につきましては、停留所施設の設置にあたり安全性の確保に課題がありますことから、途中停留所の新設は難しいものと考えております。	
90	向ヶ丘遊園のダイエーが、去年ダイエーが撤去して、私の周りの人たちはとても不便を感じています。	個別具体の建築物の用途等に関しては、基本的には各権利者の意向により決定されるものであると考えております。 なお、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区では土地区画整理事業の実施により、多くの建築物が移転・再築されることから、商業、業務、住宅等の機能を有する複合的で、良質な市街地環境を計画的に形成するため、地区の特性に応じた土地利用計画図（地区別方針図）を作成し、これに基づき、施行地区内の新たなまちづくりを推進してまいりました。 今後は、本ビジョンに基づき、地域生活拠点にふさわしいまちの実現に向けて、地域住民、民間事業者及び行政等のまちづくりに関わる多様なステークホルダーが目指すべきまちの将来像を共有し、それぞれが連携してまちの魅力や賑わい創出に向けた取組を推進してまいります。 また、土地区画整理事業区域外の本ビジョンで示すエリアにおいても、本ビジョンを活用し、魅力あるまちづくりに取り組んでまいります。	D
91	全くイメージができません。映画館すらありません。UNIQLO もありません。多摩区民は多摩区以外で買い物します。魅力が無いからです。		
92	もっと生活に密着した便利な商店をラインナップしてほしい。 街の交流に薬局、クリニック、不動産屋、パチンコ、美容室はもういらぬです。その辺りの出店の制限をできないのでしょうか。		
93	既存のこの土地にしかない店舗や施設についてはエリアの特色として引き継いで行けるものは引き継いで行ってほしいと思っています。		
94	電気屋、文房具もお願いします。		
95	スーパーはありますが洋服店、娯楽施設（映画館）等は全くありません。 自然だけの街にするつもりでしょうか。もしくは不動産だらけにするのでしょうか。		
96	駅周辺には市民館はありますが、体育施設や大勢で集まれる施設が人口に対して少ないと思います。市民の健康増進や趣味等の交流をふまえて、様々な活動できる施設があると良いと思います。		
97	住まいのある地区のブロックにはとにかく公園がないです。近所は新築も多く若い子供が多い世帯も増えています。近所の皆さんも、遊ばせるのにとっても苦勞しています。 公園を作ってください。	D	

		を進めており、事業区域内に3つの街区公園の整備を予定しております。	
98	踏切はありますが、向ヶ丘遊園駅周辺を南北に行き来するのが難しいと思います。高齢者や子どもたちなど駅利用者以外も行き来しやすいような、地下通路または、エレベーターも備えた高架橋などがあると便利になると思います。	本地区では、小田急向ヶ丘遊園駅の南北を結ぶ地下通路が開通するなど、駅周辺の回遊性向上に向けた取組を進めてまいりました。今後も引き続き、土地区画整理事業の進捗状況等を踏まえながら、回遊性向上に向け、鉄道事業者等と協議してまいります。	D
99	向ヶ丘遊園駅付近の踏切の撤去のスケジュールを追記願います。		
100	登戸駅前広場のデッキは、駅の乗り換え機能がほとんどであり、「駅を降りてまちを訪れる来街者のおもてなし空間」の中心となるよう駅前広場の整備に併せて改良すべきだと思います。	本ビジョンに示した「賑わいの核」の形成に向けて、今後駅前広場の整備や周辺の開発動向等を踏まえ、道路管理者や交通管理者等の関係者と協議調整を図りながら、駅前の基盤整備等について検討してまいります。	D
101	登戸駅東口は駅に直結する歩道橋にしてもらいたい。信号を作ったら邪魔です。		
102	道路の全面を使って歩行者が歩いたり、立ち話をしたり、子供が道遊びすることを認める交通ルールであるボンエルフを日本で初めて本格的に入れませんか。	本ビジョンに示すまちづくりの視点3「歩いて楽しく、移動が楽しく、ふらっと行きたくなる」に沿ったまちづくりを進めてまいります。 なお、地区の交通規制等につきましては、土地区画整理事業等のまちづくりによる基盤整備や、周辺開発の動向を踏まえながら、交通管理者等と協議調整を図り、検討してまいります。	C
103	政治家は小田急及び南武線のペDESTリアンデッキで演説します。地元住民には見向きもしません。別の場所に作るのは如何でしょうか。	本ビジョンは、地域生活拠点にふさわしいまちの実現に向けて、地域住民、民間事業者及び行政等のまちづくりに関わる多様なステークホルダーが、目指すべきまちの将来像を共有し、それぞれが連携してまちの魅力や賑わい創出に向けた取組を推進することにより、まちの価値向上につなげていく基本的な指針として策定するもので、政治的な趣旨等を記載するものではありません。	E

104	「向ヶ丘遊園駅」の駅名変更を小田急側に申し出たらいかがでしょうか。外部から来た人が疑問に思うと思います。	駅名変更につきましては、鉄道事業者 に御意見があったことを伝えてまい ります。	E
105	駅近くでイヤな匂いを放っている場所が 所々あるので清潔感のある街にしてほし いです。	御意見につきましては、関係者と共有 し、地域の環境向上に努めてまいりま す。	E